

第6章

ケーススタディで 銘柄の上下を見抜く

(1) 売上債権（売掛金・受取手形）



A 売上債権の回転日数

売上債権回転日数＝
 バランスシートの上債権年間平均値 (売掛金+受取手形)
 ÷ 損益計算書の年間売り上げ × 365 日

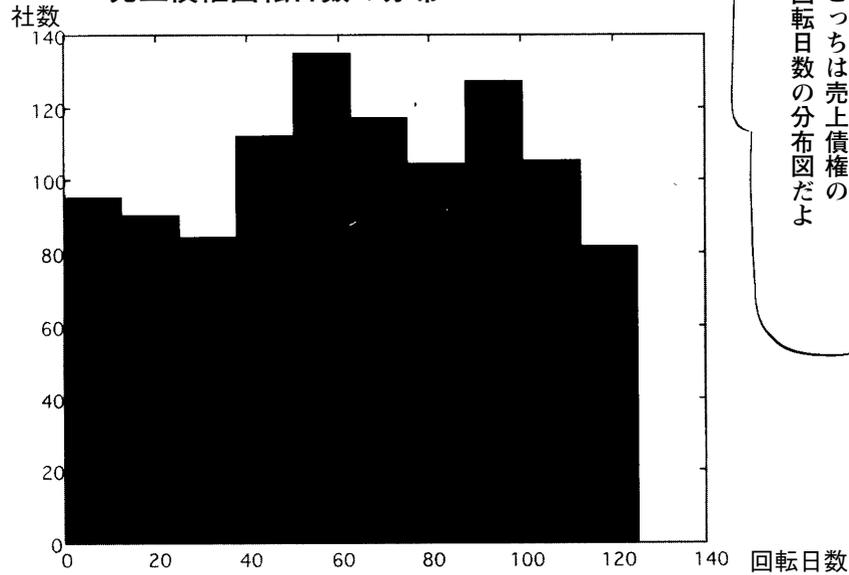
平均値は (期初+期末) ÷ 2

まずは
 回転日数に
 注目しよう

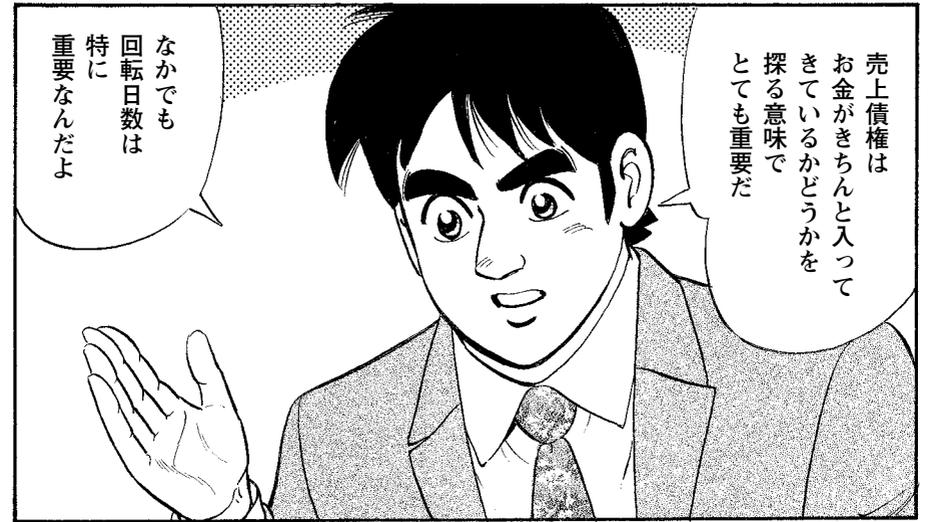


売上債権
 回転日数は
 この式で
 計算できる

売上債権回転日数の分布



こっちは売上債権の
 回転日数の分布図だよ



売上債権は
 お金がちちんと入って
 きているかどうかを
 探る意味で
 とても重要な

なかでも
 回転日数は
 特に
 重要なんだよ



ここを見ると
 「モノを売ってから
 どのくらいの間で
 入金があるのか」が
 わかるからね

そうだな
 いくら大金でも
 何カ月も先だと
 今すぐ必要な
 千円に負ける
 よな…

それって
 お前の場合
 お腹が空いた
 ときの
 食事代
 ことだろ



ゴホン
回転日数の 話に戻ろうか
この売上債権の 回転日数には ふたつの 意味合いがある

(1) 絶対水準
4 カ月以上は要注意

(2) トレンド、変化率
悪化傾向にあるのか
改革傾向にあるのか
ということ

絶対水準が高く 前年よりも 回転率が著しく 悪化している 場合は
その企業に 良くないことが 起こると 考えらるべき だろうね

売上債権というのは 売掛金や 受取手形のことだと 言ったよね

図の分布状況を見ると ゼロから34日まで かなり分散している
でも 4カ月以上に わたるような 長いものは 少ない

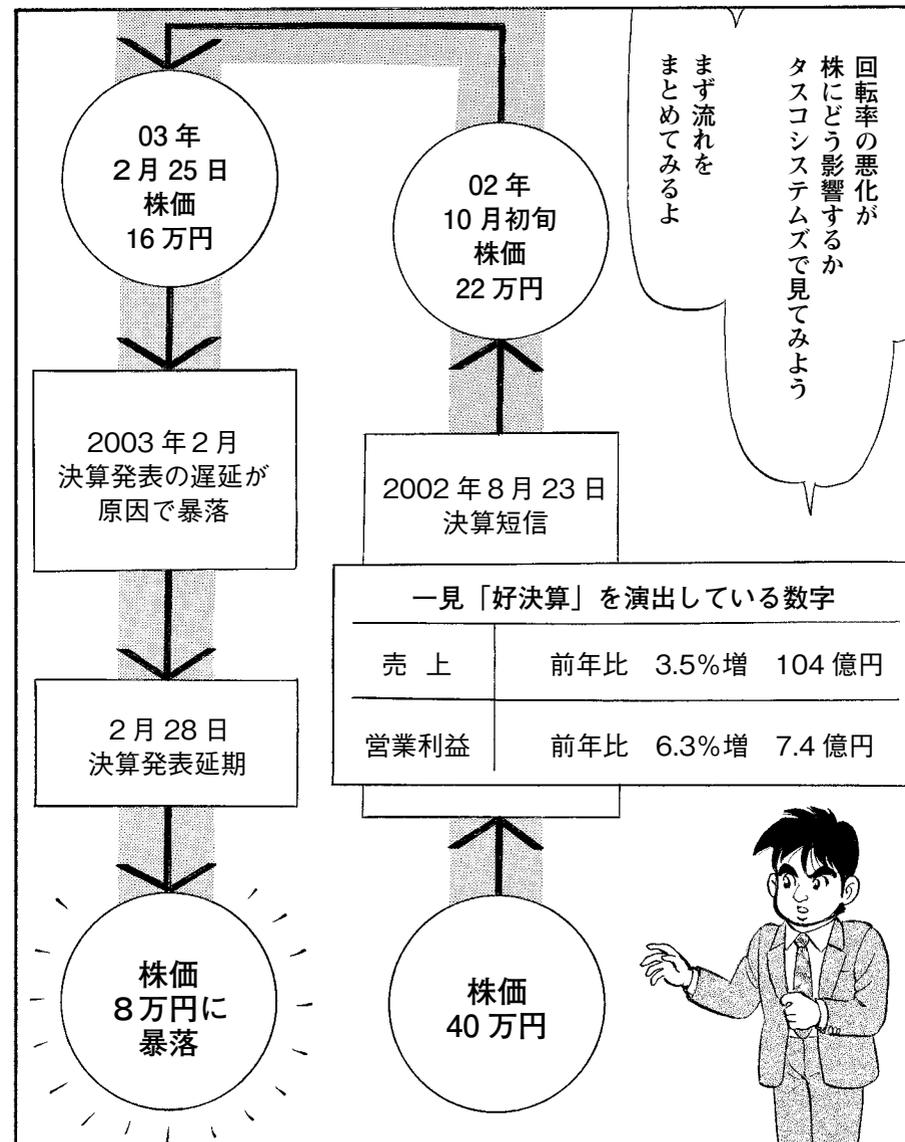
回転日数 (日)	社数
0-10	10
10-20	15
20-30	20
30-40	30
40-50	45
50-60	60
60-70	55
70-80	45
80-90	35
90-100	25
100-110	15
110-120	10
120-130	5
130-140	2

はい





ケース1 タスコシステムズ



(b) 過大な売上債権の調整方法

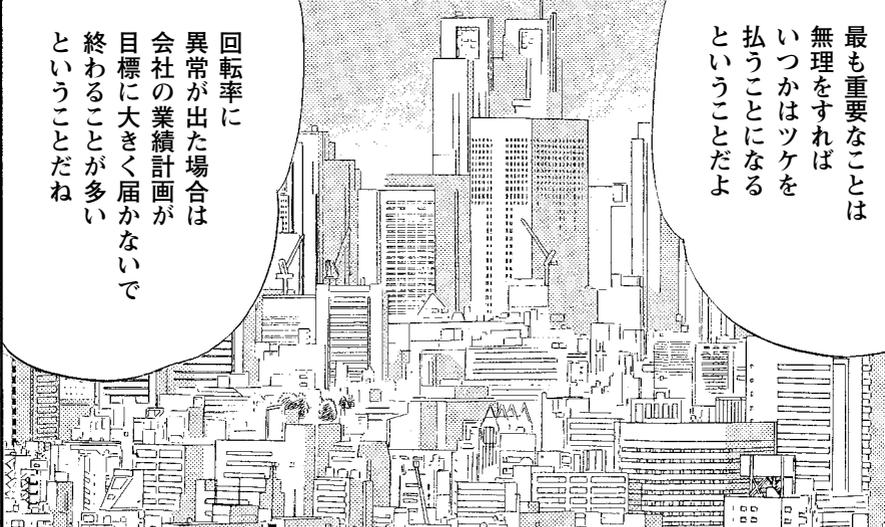


売上債権が3カ月（適正）から4カ月（異常）に増加した場合

この式で影響額を測ることができるよ

ただしこの計算式は本当に異常であるとわかったときしか使えないんだ

●売上債権が回収不能になったときの影響額
 =年間売上
 × [(異常売上債権回転月数 - 正常売上債権回転月数) ÷ 12カ月]



最も重要なことは無理をすればいつかはツケを払うことになるということだよ

回転率に異常が出た場合は会社の業績計画が目標に大きく届かないで終わることが多いということだね



何かあったはずだと思うわけで…

何かかって何ですか



それは何でもいいんだ！危険だと感じるのが大事だね

この場合は社内の引継ぎがうまくいかなかったと言われている

まずは危険を察知して売ること

それが正しい選択だったわけだよ



ここがポイント

売掛金の定義は知っていても、その意味がわかっていないと失敗する。売掛金の水準を見るだけで、その売り方や顧客の反応までが目に浮かぶなど、投資家はクリエイティブでなければならない。バランスシートを分析するときは、「(企業が) 下方修正が出やすい」とか、「出にくい」とか、「無理している」とか、「余裕がある」とか、そういうことを分析すること。



式 売上債権が回収不能になったときの影響額
 = 年間売上
 × [(異常売上債権回転月数 - 正常売上債権回転月数) ÷ 12 カ月]

なので

答 年間売上 × [(5 カ月 - 2 カ月) ÷ 12 カ月]
 = 年間売上 × 4分の1 カ月 × 粗利益率

そうですね

簡単なじゃん

式はね…